



江古田 浅間神社

浅間神社

東京都練馬区小竹町1の59の2

電話 社務所 3957-6662



えこだ せんげん じんしゃ
江古田 浅間神社

御祭神 木花之佐久夜姫命

鎮座地 東京都練馬区小竹町一丁目五十九番地二号
例祭日 九月第一土曜・日曜
式典 九月十五日

御由緒

末社 稻荷神社（宇迦之御魂命）
富士塚 昭和五十四年（一九七九）五月二十一日、国の重要有形民俗文化財に指定。

当社の創建は不詳です。承平元年（九三二）六月夏山茅原浅間（当時）に雪が降り、この山がいかに富士山に似ているので村人が登ってみると神体と思われる石を拜したこと「富士の大神」と崇め奉りたことにはじまるといわれています。「新編武蔵風土記稿」の上板橋の頃に「富士浅間神社・能満寺・西光寺侍」とあります。また当社は「茅原浅間神社」という呼称があり、江戸中期になると富士講の盛んな上板橋・中新井・下練馬の人々にも崇敬され「江古田の富士」と呼ばれ更に親しまれるようになります。江戸後期には富士浅間神社と呼ばれ、能満寺が別当寺でした。

大正四年（一九一五）武蔵野鉄道（現西武池袋線）開通で江古田駅が設けられた為に清戸道からの参道は中断されました。本殿は天保十年（一八三九）の建築ですが大震災で損傷しましたが大正十三年（一九二四）には補修しました。拜殿は昭和二十七年（一九五二）に、神楽殿は二十九年（一九五四）に新築しました。境内には練馬区指定の「大樹のケヤキ」（ねりま区の名木）が二本あります。当社は現在、板橋区東新町に鎮座する「氷川神社」の境外末社として奉斎されています。なお、練馬区の密集住宅市街地整備事業により平成四年度（一九九二）からの主要生活道路の整備に伴い平成十三年（二〇〇一）度より当社境内地拜殿・神楽殿・社務所の新築、改修、および玉垣・参道等の整備を実施しました。

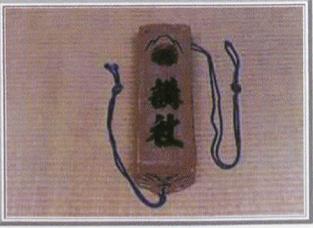
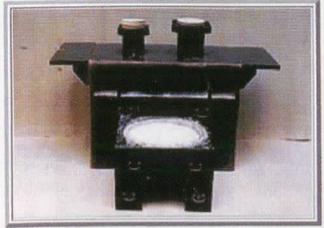
浅間神社 宝物



【富士講】
「講」というのは、宗教や経済などの目的達成のために組織された集団で「富士講」は、霊峰富士に登り、浅間神社に参拝することを目的に結成されたものです。年ごとに「講」の代表者として参拝するものを選び、必要な経費を講員全員で負担、富士山が山開きを迎える陰暦6月1日から21日までの間に富士山に登りました。そのような中、代表者に選ばれなかった講員でも信仰欲を満たせるように、江戸時代終わごろから富士山に似せた富士塚が各地に築かれることになりました。富士塚に登ると、実際に富士山に出かけたのと同じ御利益があるとされてきました。
「富士講」は、戦国時代末期から江戸時代初期にかけて人穴※（ひとあな）で修行したといわれる九州長崎出身の長谷川（藤原）角行が開祖といわれ、江戸時代中期には、村上光清と食行身縁の活動により多くの信者を集めました。江戸時代末期には江戸を中心として関東一円に広まっていたといき、「江戸八百八講」といわれるほどでした。
練馬区内にも富士山や神奈川の大山に登りに行く「富士講」や「大山講」などの山岳信仰者の集まりがたくさんあります。
※人穴：火山の麓などにある、昔人が住んだといわれる洞窟。

練馬区登録有形民俗文化財
国指定重要有形民俗文化財
【江古田の富士塚】
「江古田の富士塚」は、江戸時代後期に下練馬村・中新井村・中村の各講により構成される「小竹丸蔵講（こたけまるはらいこう）」により、天保10年（1839年）に築かれたものと考えられます（一説には文化年間（1804～1818年）築造ともいわれています）。大正12年（1923年）関東大震災によって倒壊しましたが、翌13年には復旧工事が行われ、現在の姿となっています。
塚は高さ8m、直径約30mの大きさで、通称「江古田富士」と呼ばれており、都内の富士塚の中でも大規模の部類に属するものです。前面と左右の3方に裾をひろげ、後ろのみ傾斜が急になっています。前面にはジグザグの参道（登山道）が1合目から8合目までつづられ、頂上近くは廻り道になっています。また塚の一部は富士山の溶岩で覆われています。
頂上の唐破風屋根のついた石祠は、天保10年に建立されたもので、他に経ヶ嶽・太郎坊・小御嶽神社の石碑や大天狗・神猿などの石像もあり、元治2年（1865年）講碑、大正12年震災時の御神体修築の碑などが建っています。社殿の前には文化4年（1807年）石燈籠や文化9年（1812年）の手手鉢なども残っています。
「江古田の富士塚」は、庶民信仰の模相を示すものとして、昭和54年5月21日、国の重要有形民俗文化財に指定されました。

【文献資料 練馬区教育委員会・練馬の神社・練馬の富士塚資料他より】
お炊きあげ道具（非公開） 御身貫（非公開）



「江古田の富士塚」に関する富士山信仰の団体「小竹丸蔵講」が用いた祭りの道具箱類です。お炊きあげ道具、旗、御身貫（おみぬき）が伝わっています。お炊きあげ道具の一つである火打箱に明治15年と読める墨書があります。江戸時代から昭和の戦前まで盛んだった富士山信仰の様子を伝えるものです。

主な年間祭典・祭事



1月1日歳旦祭



2月初午祭



4月初申祭



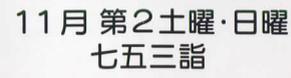
2月3日節分祭



5月27日
大山不動尊祭



9月 第2土曜・日曜
例大祭



11月 第2土曜・日曜
七五三詣



12月28日大祓式
12月31日除夜